平成２８年５月１９日

北九州市長　北橋健治　様

　　副市長　梅本和秀　様

市議会議長　戸町武弘　様

村野藤吾の八幡図書館解体を止める緊急署名・実行委員会

代 表 ：三 輪 俊 和（北九州市立大学名誉教授）

事務局：八幡市民会館と八幡図書館の存続問題を考える会

北九州市八幡東区尾倉3-3-22　tel/fax 093-662-5120

 問合せ：090-6297-9009(加来) 090-9563-3815(三浦)

「村野藤吾の八幡図書館」解体に関連する諸問題について【申し入れ】

先日５月１３日におこなわれた元外交官・東郷氏との面談について、私たち市民は「八幡の歴史遺産と文化のメッカ」とりわけ「村野藤吾の八幡図書館」の存続を期待し見守っていました。しかし、その後の新聞報道で解体方針を変えられない理由は、

①市民が新病院建設を求めており、災害時のオープンスペースが必要

②委員会を開き議論した結果で変えられない

③病院建設工事に支障がある

との説明がなされたことに関連して、次の問題点を指摘し申し入れます。

【１】市民は「村野藤吾の八幡図書館解体と引き換え」の新病院建設を求めていない

　災害時の「オープンスペースが必要」との構想を持ちながら、なぜ旧九国大文化交流センターによって敷地の４分の１が毀損されている尾倉小学校跡地を新病院の移転先に選定したのでしょうか。選定時に新病院・駐車場・オープンスペースの配置概要図を作成しないまま、移転先を決定したことが今日の混乱の原因です。概要図を後日作成して敷地不足が判明した時点で「尾倉小学校跡地は瑕疵物件」になったのです。この時、移転先を選定し直すべきだったのです。移転先選定の経緯を示す文書は、私たちが開示請求しているにも関わらず非公開のままです。なぜ完全更地の平野小学校跡地を選ばなかったのかについての説明もないままです。市民への説明を一切行わず疑義を残したまま解体に取りかかることは、市民無視の理不尽で不条理な市政です。

市長は平成24年8月に「関係者と相談して、慎重に精査する」と言われ、24年11月には「17,000㎡の一体の土地で十分な広さを確保し、病院機能を充実できる」と公表しましたが、実情は狭い窪地で敷地の拡張が必要になったのですから、市民に実態を知らせない故意の発言です。災害時のオープンスペースは、市民会館の駐車場を共用にすれば確保できます。小倉の医療センターでも緊急時対応スペースは市庁舎前広場の借用と決めています。

【２】議論はあまりにも不十分、市民は決定を見直す再審議を求めている

これまで何度も「歴史的・文化的価値を訴え、存続を求めて」陳情し、委員会を傍聴してきました。しかし、発言は一部議員に限られ、まったく発言しない議員がほとんどでした。この問題の重要性や未来への遺産であることが広く理解されているとは思えない場面の連続でした。すべては特定の部署が決めた「廃止・解体は決定済み」に支配されているように思えてなりません。主権者の市民の意思や願いは無視されたままです。国立競技場の計画が白紙撤回されたように、手続きがどれだけ進んでいても、立ち止まり見直し将来に禍根を残さない市政運営・英断を求めます。

この問題について市長とは一度も議論が出来ていません。病院のために解体するのならば、今からでも公開討論を開いてください。

2014年3月の議員提言「所管事務調査報告書」は、どれだけの調査をされた結果でしょうか。市民の声をどれだけ受け止め反映しているのでしょうか。議会がこれまでの審議不十分＝瑕疵物件の見過ごし＝について、再度審議をする英断をなさるよう求めます。

【３】解体しないことを前提にした工法を採れば、支障は回避できる

　存続させる立場で工事方法を最大限検討する真摯な姿勢を求めます。あるいは新図書館を瑕疵物件として壊し一体の土地に戻すことです。

【４】独立行政法人にすることは、市立新八幡病院の「小児救急、災害時対応」と矛盾する

　小児救急の充実を謳い、災害時対応のためオープンスペースが必要として、「村野藤吾の八幡図書館解体」を推し進めながら、一方で採算を重視し将来的に経営破綻が予想される独立行政法人にすることは、論理矛盾です。最も採算が取れない部門の小児救急と災害対応こそ住民福祉とサービスの向上を図るべきです。市民に責任を持った市政を行うことを求めます。

【５】新八幡図書館の施設状況の改善を求める

　４月２２日に移転開館してひと月足らずですが、期待して出向いた多くの利用者が落胆し失望しています。①元の図書館＝村野藤吾の図書館＝がよかった　②閲覧室が狭すぎる、③閲覧室の書架が高く不便で書籍が少なすぎる、④セミナー室の窓の外はいずれ病院の建物で塞がれ空も見えなくなる、⑤明るすぎて落ち着かない、⑥エントランスが広すぎる、⑦図書館用に設計された建物ではなく多くの支障が生じている、などなどです。これほどひどい図書館にしておいて、「村野藤吾の八幡図書館」を解体することは容認できません。改善を求めます。

【６】～ぜひとも英断・決断を～

八幡の最も重要な戦後の歴史・文化のメッカとして市民に永年親しまれ、現に活動してきた施設を廃止・解体することは歴史の検証に耐えられない重大な歴史的汚点です。

◎東郷氏の「明治から戦後にかけて連続した物語を描ける希有な場所で、その核になっているのが図書館など村野作品。目に見えるものがあるからこそ人間の心を動かせる。それを市が自ら封じてしまうのは大きな損失」との忠告を、聞き止めてください。

◎先の大戦で当時の八幡市が焦土の中から立ち直った証であるとともに、ロータリーを取り囲む村野藤吾の市民会館と図書館一帯は、まさに広島の平和公園に匹敵するところです。

後世にぜひとも引き継いでいかなければならないところです。この価値を受け止めてください。

◎文化庁の「近現代建造物緊急重点調査」まで、「村野藤吾の八幡図書館」解体を中止してください。また、待てないのならば、「価値が定まったときに復元可能な状態で部材や外壁レンガを保管する」責任を果たし、八幡の歴史と文化に対する敬意を示してください。